

としょかんだより 第105号

図書館イベント案内

2016年10月開館予定表						
日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

2016年11月開館予定表						
日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30			

	9:00-20:00		9:00-17:00
	13:00-20:00		13:00-19:00
	休館日		9:00-19:00

発行所

〒648-0280
和歌山県伊都郡高野町
高野山 385
高野山大学
図書館閲覧室

T E L : 0736-56-3835
F A X : 0736-56-5590
twitter : @koyasanlib
E-mail
service-lib@koyasan-u.ac.jp

第2回 図書館戸田文化講座
「空海と私」

講 師：夢枕獏先生

日 時：10月18日(火)10:40~11:00

場 所：高野山大学本学2階204号教室

問合せ先：高野山大学図書館

※事前申込不要です。お誘い合わせの上、直接会場へお越し下さい

本の返却はすんでいますか？

夏期の長期貸出の返却期限は9月30日までです。長期貸出をしていない方でも図書を延滞している方は至急返却をお願いします。

延滞期間を一定以上すぎると貸出停止のペナルティがつきます。

ペナルティの基準

学生・一般：延滞期間 2週間以上

教職員：延滞期間 1カ月以上

コピーカードのリサイクルにご協力をお願いします



使用済みのコピーカードをゴミ箱に捨てる人がいますが、使い終わったコピーカードはゴミ箱に捨てたりせずカードリーダー上の回収箱に入れてください。

正岡子規

高野山大学教授 図書館長 前谷 彰(恵紹)

真砂なす数なき星の其の中に我に向かひて光る星あり

(句意) 海浜の砂の数ほど数えきれない星の中に、たったひとつ私にだけ
向かって光ってくれている星がある。

(解説)

正岡子規、本名正岡常規は慶応三年（一八六七年）に伊予（愛媛県）松山に生まれ、小学校の頃から祖父の有恒（観山）から漢学を学び、松山中学校に入学すると自ら漢詩を創り、友人達と「五友雑誌」を発刊するなどしていました。明治十六年七月に大学予備門入学試験に合格し、後に帝國大学文科大学（東京大学）哲学科に進み、この頃から夏目漱石等との親交を深めて行きますが、学年試験に落第したことがきっかけで中退。二十四歳の時に肺結核に倒れ、咯血したことから子規（ホトトギスの異名）と号し、俳句改革の運動を起こします。しかし、持病の肺結核に加え、脊椎カリエスという難病にみまわれ、ついには歩行の自由を失ってしまいます。闘病生活の中にあっても、俳誌「ホトトギス」の指導・育成に尽力して三十二歳で「歌よみに与ふる書」を発刊。短歌革新にも着手し、歌・俳句ともに写生文の理論を提唱し、その創始者となりましたが、三十六歳の若さで九月の空に消えて行きました。

この句は、子規が吐血を繰り返し、脊椎カリエスのために歩行の自由を失った頃に創られたものです。澄み切った秋の夜空にふと目をやった時、星は無数にあるのに、その中でたったひとつだけ自分に向かって煌めいてくれている星がある。子規はすでに自分の死をはっきりと予感していたのかもしれませんが、でも、自分にだけそっと語りかけるように、静かに優しく、そしてしっかりと煌めいてくれている星がひとつだけあると感じた時、死を云々する感情を離れ、「命とは儂いものだ。でも今こうして生きていることは、何とすばらしいことか」と、誰よりも深く感じ入ったに違いありません。しかしこの句を、長い間の病苦と闘い続けた子規への同情とか、お涙頂戴の感覚で捉えてしまえば、子規の真意に反することになるでしょう。

「私達にはだれでも、自身の源底で煌めいている一点の光があるはず。だから、いくら苦しくても諦めずに一所懸命に歩いていけば、星の光に呼応するように、必ずその光を見つけ出すことができる。その時こそが、自身のいのちのありように目ざめる時なのだ。」と。子規がこの句を通して伝えたかった真意は、実はこれなのです。